

第3回 東日本大震災ボランティア報告書

東部支部 大川宏和

去る、4月27日（水）～29日（金）まで社団法人福島県整骨師会より社団法人静岡県柔道整復師会が依頼を受け、中部支部の大石昌一先生、中村哲也先生と自分（東部支部大川宏和）の3名で活動して参りましたので、ここにご報告させていただきます。

・4/27（水） 13時19分のこだまにて三島出発（途中東京駅で停電の影響もあり、郡山に17時半過ぎに着。）

駅前にてレンタカーを借り、19時頃、宿舎として自宅敷地内のアパートを提供して頂いておられる、福島県社団災害対策本部の村上英一先生宅着

・19時30分頃より、村上先生より翌日からの活動計画についてレクチャーを受ける。

・4/28（木） 朝、我々の道案内、コーディネーションをして頂く為に来て頂いた、福島県社団会員の牧野央尚先生と合流し、9時より12時まで福島市あづま体育館（約1千名の避難者の方々収容）の1階エントランスの片隅約3坪程のスペースを得て、接骨院ボランティアを実施。



ここは主に、沿岸部の被災者の方々が多く、転々と避難所を移動され心身共に疲労し、固い体育館のフロアでの寝起きや、狭い空間に多人数の方々との同居生活によるストレス等により肩、背中、腰部に疼痛を訴える方が多く時期的にも亜急性の疼痛を抱える方が大半でしたが、一部には津波にもまれ天井に左手を打ちつけ、尺骨下端骨折を受傷し搬送先の病院でギプス固定をし、ギプス除去後は「病院も手が回らないので、そのままだった」と言う患者さんも居られ低周波通電後、手技にて機能回復を行うケースも見られ、多種多様なニーズに対応し21名を施術。

〈牧野先生は3/13に勤務先の接骨院を退職しご実家の接骨院に戻る予定でしたが、2日前の3/11に岩手県陸前高田市の勤務先で被災し、勤務先の接骨院も自宅アパートも流されて2日間避難所暮らしを経験し、ヒッチハイクで何とか福島に戻られたとの事です。〉

・4/28（木） 14時より17時まで、郡山市ビックパレット（約2千名の被災者の方々収容）にて活動。

こちらは、原発からの避難者の方々が多く、1階医療関係のボランティア団体が多数活動しているブースの入り口付近に、約3坪程のスペースにて接骨院ボランティアを実施。



やはり、亜急性の疼痛を訴える方々が多く、手技を中心に低周波、ホットマグナー等により17名の方々を施術。

・4/29日(金) 函館からの工藤先生と合流し、大石先生、工藤先生の2名で、昨日同様午前は福島市あづま体育館、午後福島市ビックパレットを中村先生と自分は相馬市の避難所を巡回するという、二手に分かれての活動となった。

・相馬市に10時半過ぎに着き、道案内、コーディネート、被災現場の案内を地元のあすなる接骨院院長の小松孝行先生が行ってくれ、『皆さんに相馬の実体を知ってもらいたい!!』と震災時の様々な様子、その苦労を現場の案内をしながら熱く語ってくれた。



我々も思わず目頭が熱くなり、被災現場では言葉を失い、被災地、被災者の方々のこれまでの、またこれからの苦労を考え、支援活動に様々な思いを馳せた。

・11時過ぎより中村第二小学校にて4名、午後12時半より中村第二中学校にて8名を施術。やはり大半は、長引く避難所暮らしにて肩、腰、膝に痛みを訴える方が多く、中には夜トイレに行こうとして電気コードに足を取られて転倒し膝関節部を打撲した方もおられ、避難所運営の安全性確保の難しさを知った。



・17時半、郡山市ビックパレットにて活動中の、大石先生達と合流し18時21分やまびこにて帰路に着く。

・今回も地元の沼津市立長井崎中学校、伊豆の国市立大仁中学校の生徒さん、患者さん達より、励ましのメッセージの書かれた栞(裏にペコちゃんの飴付き)を被災者の方々にプレゼントし大変喜ばれた。この様な心のこもった支援を中継することも、大切な我々の出来るボランティア活動と言える。



・福島市、郡山市、相馬市と、距離の離れている地方都市で様々な要件の避難所を巡回する必要性上、車にての移動が必須要件となり、選択肢の一つは静岡からの車移動(かなりの時間と体力を要するが安価)、二つ目は新幹線を乗り継ぎ、レンタカーを借り現地で活動(時間と体力の節約も多少費用がかさむ)等が考えられ、今後支援活動をする先生方の活動様式に応じて選択することが望ましいと考えられる。



・今回の活動を通し、被災後約1ヶ月半というタイミングで未だに多くの被災者が避難所暮らしを強いられ、心身共にストレスや不自由な暮らしの中で、様々な運動機能の低下やトラブルが見受けられた。

・今後も、中・長期的な視点をもって柔整師が培ってきた様々な技術、理論をもって支援活動をする必要性を強く感じた。

